

新年のごあいさつ



登別市議会議長

工藤 倶二雄

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、希望にあふれた新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、去年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、未知のウイルスの脅威を目の当たりにし、外出の自粛や3密を避けた上での社会生活を強いられるなど、不安の絶えない1年であったことと思います。市議会においても、本会議における議員の発言時間の短縮や、議会フォーラムの開催を中止するなど、議会活動の範囲を狭めることを余儀なくされることとなりました。一日も早い感染者の回復と、新型コロナウイルスの終息を願うところであります。

このような中、去年は議会BCP（業務継続計画）を策定し、感染予防を徹底した上で防災訓練を行うなど、新しい生活様式に則した議会運営に努めているところであります。

今後におきましても、市民と身近な議会運営に努めるとともに、市民の皆さまの期待と信頼に応えられる議会となるよう、感染症対策を十分考慮した上での議会改革に取り組んでいく所存であります。

結びに、市民の皆さまにとりまして、本年もご健勝で明るく、幸せに満ちあふれた実り多き年となりますことを心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



登別市長

小笠原 春一

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

さて、昨年8月、登別市は市制施行50周年を迎えました。この大きな節目の年を市民総出で、祝い、語り合うことは残念ながら、ありませんでしたが、『今できる』、そして『将来の登別につながる』新たな事業をと、立案から多くの市民、特に若い世代を中心に取り組んだ『Be Smile プロジェクト』は、多くの笑顔を生み出し、市全体の盛り上げにもつながるなど、登別市を未来へ導く一筋の光のように感じております。

同プロジェクトでつくり上げられた『新たな登別市のかたち』をさらに発展させ、未来のまちづくりへの歩みを進め続けることが、住みたい、住み続けたい魅力あるまちづくりにつながっていくものと考えております。

今後も、感染症との闘いは続きますが、多くの市民の皆さんと手を携え、50年先を見据えながら、協働のまちづくりをさらに進化させ、『小さくともキラリと光る成熟都市』を目指してまいりますので、引き続き、市民の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、幸多き年となりますことを心よりお祈りし、新年のごあいさつといたします。